

「つくること」の喜びから「使う」意識へ

美術教育講座・原田 義明

1. 授業の概要及び目的

本授業は、学校教育実践コース（美術教育専修）と造形芸術コースの2回生を対象とした合同授業である。今年度の履修学生数は19名（美術教育専修2回生1名、社会科教育専修4回生1名、造形芸術コース2回生11名、3回生6名）である。このうち、継続して履修したものは、18名である。

本授業では、やきものの代表的な成形技法の1つである「手びねり成形法」の基本的な技法の習得を目指し、作品の制作を通して、用と美、機能と造形について理解し、人間の生活に密接に結びついているやきものについて考察することを目的としている。

〈到達目標〉

- (1) やきものを構成している二大要素である土と釉薬の基礎的な事柄について、理解し、手びねり成形の技法について説明できる。
- (2) 与えられた課題内容を理解し、作品制作に生かすことができる。
- (3) 土と釉薬及び手びねり成形の特性を的確捉え、各自の制作意図に従って、作品化できる。

2. 授業内容

この授業では、重複履修や再履修の学生を除き、大部分の学生が陶芸初心者であることを念頭に置き、土づくり（荒練り・菊練り）から始め、課題設定→デザインスケッチ→粘土成形→乾燥→素焼き→施釉（絵付け）→本焼き等、一連の作業を工程毎に全体指導と個別指導を受講生の進み具合を勘案して、授業を展開した。また、課題設定に関しては、受講生に「使う」ことを強く意識させることを意図し「器」を授業全体の共通テーマとして設定した。課題Ⅰでは、使う上での身体（5感）との関係性を受講生に体感させる目的で、カップとソーサーを制作し、作品完成後、自作品を使った「茶話会」を企画・実施した。また、課題Ⅱでは、花器を制作し、作品完成後、自作の花器に花を生ける「いけばな実習」

を実施した。

3. 「つくること」の喜びから「使う」意識へ
工芸することの中には、独特の「つくること」の喜びが内包されている。しかし、経験の浅い制作者はその喜びに5感と思考を奪われて、「使うこと」への意識が弱かったり、曖昧な場合がある。この授業では、「使うこと」を強く意識させる課題設定、授業展開を試みた。

4. 授業改善のためのアンケート

アンケートの冒頭でディプロマ・ポリシー（以下DP）に関する項目を設定し、授業最終日にアンケート調査を実施した。DPに関しては、4段階で評価を行い、①向上していない②どちらかといえば向上していない③どちらかといえば向上した④向上したとした。

DP以外の質問項目に関しては、問13までは5段階評価で行い、①全くそう思わない（良くない）②あまりそう思わない（あまり良くない）③どちらとも言えない（普通）④ややそう思う（良い）⑤強くそう思う（非常に良い）とした。なお、問11の回答は①はい②いいえで答えることとし、問14～16は記述式とした。また今回は、授業時間外学習に関連した項目を新たに設定した。

回答者17名

5. アンケート結果

【教育学部DPに関する質問事項】

DP1～5まで調査を実施したが、この授業ではシラバスで重点項目をDP1にしていることから、今回はDP1のみを抽出する。DP1. 教科・教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門知識を修得している。

（知識・理解）

①1名 ②1名 ③5名 ④10名

【授業の内容に関する質問項目】

1. 授業のテーマ・目的は授業展開の中で明確でしたか。

③2名 ④1名 ⑤14名

2. この授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか。

③ 1名 ④ 3名 ⑤ 13名

3. この授業で、あなたのこの分野への興味・関心は向上しましたか。

④ 4名 ⑤ 13名

4. この授業により、自分の考え方が培われたり、得るところがありましたか。

④ 6名 ⑤ 11名

【授業方法に関する質問】

5. 担当教員の話し方や説明はわかりやすかったですか。

④ 4名 ⑤ 13名

6. 担当教員の熱意。工夫は感じられましたか。

③ 1名 ④ 3名 ⑤ 13名

7. 制作中のアドバイスの内容は適切でしたか。

④ 5名 ⑤ 12名

8. この授業では、教材や資料が工夫されていましたか。

③ 1名 ④ 6名 ⑤ 10名

9. この授業の中で質問や意見発表の機会が与えられ、教員はそれに適切に対応していましたか。

③ 1名 ④ 4名 ⑤ 12名

【受講生自身に関する質問】

10. あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

④ 9名 ⑤ 8名

11. あなたはこの授業に関する時間外学習を行いましたか。(時間外での制作、資料収集、展覧会等の作品鑑賞)

① 7名 ⑤ 8名 無回答 2名

【授業全体に関する質問】

12. この授業は、「つくること」と「使うこと」を意識させるような課題設定と授業展開でしたか。

③ 1名 ④ 2名 ⑤ 14名

13. この授業の課題を通して、制作者としての「つくる視点」だけでなく、使用者としての「使う視点」を意識するようになりましたか。

④ 5名 ⑤ 12名

※以下、問14～16の設問は、誤字・脱字等を除き受講生の記述をそのまま転記する。

14. この授業を通して、最も印象に残っていること(素材、技法、表現等)について記述して下さい。

○吹き掛けをととても濃くしていくと、釉薬が

流れる感じになり、自分の好きな表現が出来たと思います。

○釉薬の吹き掛け。色土を使うのも面白いと思った。

○釉薬をはじめで使用し、重ね方等で生ずる複雑さや意外性が出て面白かった。

○どんな場面で使用するか、どう使いたいかを想像しながら制作し、使い手の視点に立って作品を見るということ。

○いけばな実習で様々なお花が用意されていて楽しかった。合評会で色々な人の作品を鑑賞できて感性が広がった。

○印象に残っているのは、制作したものを実際に使用してみた時のことです。使用者になって、自分の作品と向き合うことで気づくことがたくさんあって、大変勉強になりました。

○釉薬を組み合わせることで表現が広がる。

○手びねり成形は、自分の思うような形にしやすい技法だった。

15. この授業で良くなかった点、改善すべき点を記述して下さい。

○時間にルーズな人がちらほらいるので、もう少し集中して出来るようにしてほしい。

16. 実習室の状態や学生数など受講環境について意見があれば記述して下さい。

○実習室はいつもきれいで、生徒数も丁度良いです。しかし、少し寒いです。

○教室はきれいでいいと思います。

○今回学生数は良かったが、これ以上多くなると少し制作しにくいかと感じた。

○とても良い環境だと思います。

○実習室は使いやすく、学生数も丁度よかったです。

○朝の1限からの授業は肉体的にしんどいことがあったので、時間を調節してもらえれば大変有難いです。

6. まとめ

アンケート結果から、多くの学生が課題の意図を理解し、「使うこと」を意識した作品制作を心掛けたことが伺える。また制作の過程で発見したやきもの独自の素材や技法・表現に関して記述したのも多く、このことから「つくること」を保障する中で「使う」こと意識するという授業目的は達成したと考える。しかし、今回新たに調査項目に加えた「授業時間外学習」については、約半数の学生が否定的な回答であった。今後の課題としたい。